

東西学生交流  
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期) III  
学生交流)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原沢, 伊都夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007680">https://doi.org/10.14945/00007680</a>

## 東西学生交流

原沢 伊都夫

静岡大学の静岡キャンパスと浜松キャンパスで学ぶ日本人および外国人学生との交流イベント「静大オリンピック」が平成24年6月30日（土）～7月1日（日）に静岡大学の施設の1つである藤枝フィールドで開催された。今回のイベントは昨年続くものであり、学長と学生との意見交換会の席を設け、留学生を交えた東西交流のチャンスを作りたいという学生の声を反映したものであり、学長が学生の要望に応える形で実現したものである。東西のキャンパスの学生からなる実行委員会を立ち上げ、企画から準備までのすべてを学生自身が主体となって行った。必要に応じて、事務局職員と国際交流センター教員などが助言やサポートを行い、円滑な運営に貢献した。

参加者は約45名で、初日の午後は、真の国際交流に向けての熱い討論が始まった。大学からも学長を始め、国際交流センター長、教員などが参加し、学生の真摯な意見に耳を傾けた。昨年話題となったチューターの問題について、国際交流センター長がこれまでの対応を説明するとともに、新しい交流に向けての意見交換が活発になされた。その後、スポーツ交流を行い、グループに分かれ、ドッジボールや借り物競走などを通して、お互いの交流を深めた。夜はバーベキューをして、英気を養うとともに、討論会では話さきれなかったことを話したりして、異文化の語らいを楽しんだ。

今回の交流は留学生を交えた東西交流イベントとして、2回目の開催であった。以前は、学長主催の東西キャンパス合同の懇親会が行われていたが、廃止になり、それ以降、静岡キャンパスと浜松キャンパスの留学生が一緒になるのは、年度末に開催されるスキー旅行だけになっている。その意味で今回の催しは意義があるものであるが、参加した学生に偏りがあるなど、来年度に向けての開催については、今後さらに検討する必要があることが明らかになった。